

藩政時代の中規模鉱山の稼行歴と出鉱量

— 秋田藩・東福寺鉱山の例 —

斎藤 実 則

一、まえがき

現在、秋田県内には二〇〇余の休廃止鉱山がある。その大部分は藩政時代に稼行されたものである。

これらの休廃止鉱山の歴史を明確にすることはむずかしく出鉱量を計算することは、さらに困難である。ところが、これらの休廃止鉱山中、比較的経営規模の大きかった鉱山の多くは、鉱山公害問題に絡んでいる。その問題を解明するためにも、藩政時代稼行鉱山の経営の実態と出鉱量を明確にする必要がある。

本稿では、秋田藩の東福寺鉱山を例に、稼行の実態と出鉱量の試算について報告する。

二、鉱山概況

本鉱山は秋田県雄勝郡稲川町東福寺に位置し、現在の秋田県採掘登録鉱区四四号に当る。藩政時代は白沢鉱山と呼ばれ、文化九年以後は大倉鉱山を合せて東福寺鉱山と呼んでいる。

鉱床は石英粗面岩中の網状鉄床で、数か所に分布している。鉱石は黄銅鉱が主で、銅品位は三ノ四多である。

坑口は山麓斜面に一〇か所余にみられる。¹⁾

三、資料・方法

鉱山史を明確にするためには、地元に残存する諸文書・資料と、古絵図・古地図などによった。前記諸資料を引用した先学の諸文献も参考にした。

また、数回現地調査を実施し、旧坑口・研堆積場・坑水排水路・鉱山集落跡・泉・墓地などを調査するとともに、地元の古老や、かつて鉱山で働いた鉱夫などから聞き取り調査を行った。

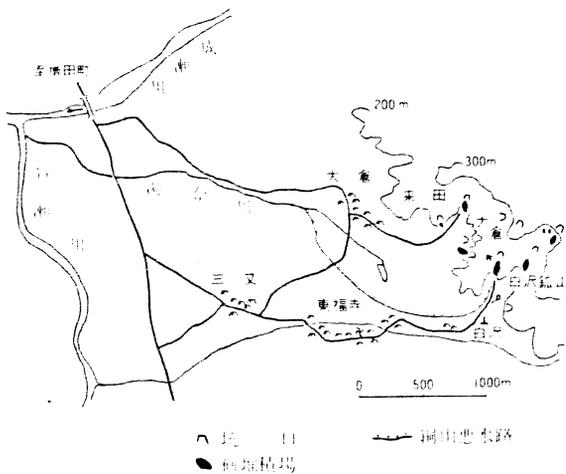


図1 東福寺鉱山周辺略図

地元に残る文書には、萬覚帳⁽⁴⁾、郡邑記⁽⁵⁾、茂木家諸文書⁽⁴⁾、萬代日記⁽⁹⁾、秋田領内諸金山箇所年数帳⁽¹⁰⁾、赤滝神社御由緒⁽¹¹⁾などあり、東福寺鉱山に関する直接・間接の記述がある、この他に、地元雲岩寺の過去帳と同寺に残る諸資料が重要である。

鉱床・鉱山誌の観点からは、木下亀城・渡辺万次郎の「大光学」の論文⁽¹²⁾、⁽¹³⁾があるほか、藤実徳の郷土研究の中に、現地調査報告がある。

鉱山経営と鉱山地域社会については、梅津政景日記と坑場法律⁽¹⁴⁾が、とくに重要な文献で、これらの諸資料を基にした院内銀山と松岡鉱山に関する報告がある。

四、開発史

東福寺鉱山のうち、白沢鉱山に関する文書・文献などについてまとめたのが表1である。

本鉱山の創業を宝永年間(一七〇四)一七〇〇以前とする説もあるが、これを裏付ける資料はない。

宝永六(一七〇九)年、山師阿部小平次により、白沢銅山として開坑・操業している。

表1 白沢鉱山開発歴史年表

年	事 項	資 料
宝永 6 (1709)	●白沢鉱山始まり 山師山野目小平次入山	萬覚帳
正徳年間 (1711~15)	●湯奈川・皆瀬川に鉱毒問題起る	赤滝神社御由緒
延享年間 (1744~47)	●白沢鉱山旧坑発見	稲川町史資料
宝暦 4 (1754)	※秋田蕃御用銅定高15万斤増額	県史
5 (1755)	※領内大凶作飢人乞食多し 鉱山に労働者集まる	〃
12 (1762)	●雲岩寺新築	雲岩寺過去帳
安永 6 (1777)	●山師(戒名鉄山金牛)没	〃
寛政 5 (1793)	●白沢鉱山稼行 山師与之助	萬覚帳
寛政年間	●村の奥(上村)小屋7戸金掘40~50人	郡邑記
	●排水路設ける	〃
享和 1 (1801)	●白沢鉱山稼行	秋田領内諸金山箇所
文化 1 (1804)	●白沢鉱山請山となる 山師甚右衛門	〃 年数帳
5 (1808)	●鉱毒水問題起り、悪水路掘替願出る	茂木家文書
6 (1809)	●悪水路改修工事行われる	〃
7 (1810)	●山師松太郎	秋田領内諸金山箇所
12 (1815)	●山師仁兵衛	〃 年数表
文政 5 (1822)	●銅山悪水路改修工事行われる	茂木家文書
10 (1827)	●銅山師新助没、銅山師喜六没	雲岩寺過去帳
文政年間	●銅山師新助田地80刈を雲岩寺に寄進する	〃
天保 4 (1833)	※秋凶作 飢人 乞食 死人多し	羽後町郷土史料
弘化 4 (1847)	●白沢鉱山稼行	稲川町史資料
嘉永 1 (1848)	●山師喜六 御米六斗雲岩寺に寄進する	雲岩寺過去帳
安政 4 (1857)	●白沢鉱山休坑	雄勝郡村誌
明治 4 (1871)	●東福寺銅山再坑	萬代日記帳
5 (1872)	●銅山悪水路改修工事行われる	茂木家文書

尾去沢・永松鉦山などの鋪も稼行した経験のある有力者であった。その経営はかなり大規模に行われたらしく、数年後の正徳年間（一七一〇～一七二五）には、湯奈川と皆瀬川流域で鉦毒水問題が起きている。

延享年間（一七四四～一七四七）に、隣接の大倉鉦山が発見・開坑されているが、同時期に白沢鉦山の旧坑が発見されたと記録されているから、おそらく延享年間まで休山状態にあったろう。また、本鉦山が再坑したかは疑問である。

宝暦四（一七五四）年に、秋田藩の御用銅定高が一五万斤（九〇トン）増額している。そのため、藩内において銅山の開発が盛んに行われた。

宝暦五（一七五五）年に、秋田藩領内が凶作に見舞われている。かかる凶作年に、鉦山に多数の労働者が集まり、操業を続行しているのが、本地域の諸鉦山の特色でもある。

宝暦一二（一七六二）年に、雲岩寺が新築されていることは、興味深い出来事である。白沢鉦山の鉦況と関係があったろう。

安永六（一七七七）年、山師（戒名鉄山金牛）が没しており、雲岩寺に祭られている。かなりの実力者であったと推定され、生前に白沢鉦山を相当規模で稼行し、雲岩寺にもいろいろ寄進したであろう。

寛政年間（一七八九～一八〇〇）、本鉦山は大倉鉦山とともに稼行し、山師与之助が主となり、村の奥（白沢）には小屋が七戸、金掘り（採鉦夫）四〇～五〇人住んでいたと記録され、同地区には当時から利用されたといひ依えられている泉があり、現在も飲料水として利用できる清水が湧き出ている。

同時期には、本鉦山の排水路が設けられたという記録もあつた。これは本鉦山の稼行を裏付ける資料であるばかりでなく、相当規模であったことを示す。

雲岩寺にはマリア観音があり、キリシタンの潜伏を示す資料といえるが、院内銀山の例などからして、宝永から寛政年間までの間に本鉦山に來た山師が金子のうちにキリシタンがおつたであろう。

享和元（一八一〇）年、白沢鉦山稼行とあり、寛政年間以降、連続しての稼行と考えられる。

文化元（一八〇四）年から、本鉦山は秋田藩の請山として稼行されている。経営規模が従来に比して大きくなり、鉦毒水問題が湯奈川流域一帯で起っている。従来の排水路は銅山悪水路と呼ばれるようになり、大掛かりな溜池の築造と排水路の改修工事が行われている。

文化年間以降、山師松太郎・仁兵衛・新助・喜六などが入出し、かなり大規模に、しかも長期にわたって鉦山を経営している。また二・三名の山師が入山した時期もあり、鋪・間歩（坑道）ごとに稼行したのである。

文政五（一八二二）年、再度鉦毒水問題が起り、皆瀬川流域までその影響を及ぼしている。文政四・五年に白沢銅山の盛期があつたろう。

文政一〇（一八二七）年、山師新助が没している。新助は生前、雲岩寺に田地八〇刈を寄進していることは注目に値する。白沢に永住した山師の一人であり、鉦山経営に成功した山師の性格の一面をうかがい知ることができる。

「東北鉦山風土記」の著者は、天保年間（一八三〇）～一八四三）本鉦山が休山したであろうと推定している。²⁴しかし、地元にはそのような記録はない。

弘化四（一八四七）年に白沢鉦山稼行の記録があり、嘉永六（一八四八）年に地元山師喜人が雲岩寺に御米六斗を寄進している。そして安政四（一八五七）年に休山した記録がある。

休山状態は明治四（一八七二）年まで続き、同年再坑すると翌年には鉦毒水問題が起きている。

五、鉦山の操業規模と出鉦量

藩政時代の鉦山の操業規模は、出鉦量の他に山師・鉦夫数によって推定できる。

本鉦山の場合、「秋田領内箇所金山年数帳」から、藩の請山として稼行され、素銅を製錬した年代が明確にできる。

藩政時代の山師がどれ位の山師を従え、鉦山経営に当たったかについては、「梅津政景日記」を基にした院内銀山、「坑場法律」を基にした松岡鉦山の研究例がある。この両研究例からの比較が可能である。

地元「茂木文書」には、本鉦山に関する記録の他に、銅山悪水路に関する詳細なる文書があり、大規模経営時に鉦毒水問題を起していることが明らかにされた。

秋田県は積雪地域であり、鉦山の稼行日数が問題となる。本鉦山の場合、平常の積雪の場合、年間を通して操業が可能である。

鉦夫一人の一日当り出鉦量については、院内・松岡両鉦山の他に、

県内の細地・川口・荒川銅山の例があり、鉦夫一人当りの出鉦量が二貫目以下では経営が成立しないことも明確にされている。

鉦山集落の規模と鉦夫数の関係は、享保一五（一七三〇）年と明治九（一八七六）年の資料から算定できるが、他に墓地・墓石などからも推定できる。

研堆積量は採掘鉦量逆算の決定的資料となる。現在の研堆積量から明治以降のそれを引いた量が、藩政時代の研堆積量に近い数値といえる。

前記の諸基準から、筆者は本鉦山の出鉦量を次のように試算した。

一期	宝永六年～正徳三年	約	六七五、〇〇〇貫
二期	宝暦四年～安永六年	〃	六五〇、〇〇〇貫
三期	寛政五年～寛政一〇年	〃	二七〇、〇〇〇貫
四期	寛政一一年～文化四年	〃	二〇〇、〇〇〇貫
五期	文化五年～文政一〇年	〃	三六〇、〇〇〇貫
六期	文政一一年～安政四年	〃	二〇〇、〇〇〇貫
七期	明治四年～明治五年	〃	四〇〇、〇〇〇貫
計			五、九九五、〇〇〇貫

（試算例 一期 山師・阿部小平次 鉦夫・一五〇人 鉦夫一人一日当りの出鉦量・三貫 稼働日数・三〇〇日 稼行期間・五カ年 全出鉦量・六七五、〇〇〇貫）

六、結語

秋田県雄勝郡稲川町で稼行された東福寺鉦山を白沢と大倉に区分し、前者についての稼行史と出鉦量の試算を行なった。

本鉾山に関する文書・資料・文献は比較的豊富であるが、原典となる古文書を基礎にして、諸文献は参考にするにとどめた。

本鉾山の創業は、宝永七（一七〇九）年に始まり、安政四（一八五七）年に休山している。この間、休山した時期もある。

本鉾山の盛期は、宝永年間、寛政年間、文化年間と文政年間にみられ、他地域から入山した山師によって稼行されており、そのたむごとに鉾毒水問題を起している。

衰退期は地元の山師によって小規模に稼行されている。

本鉾山の藩政時代の出鉾量を約五、九九五、〇〇〇貫と試算した。

注

- ① 渡辺万次郎博士調査資料による。
- ② 萬覚帳 安永五年 金兵衛家文書
- ③ 御張紙繪り高 文化六年 茂木家文書
- ④ 御張紙御答書控 文化六年 茂木家文書
- ⑤ 覚 文化六年 茂木家文書 茂木家文書
- ⑥ 洞山関普請願書 文政二年 茂木家文書
- ⑦ “ 文政三年 茂木家文書
- ⑧ 悪水除堰普請願書 明治五年 茂木家文書
- ⑨ 萬代日記 明治四年 茂木家文書
- ⑩ 秋田県 秋田領内諸金山箇所年数帳 「秋田県史第三冊」 一九一五 八八一～八九〇頁
- ⑪ 大山順造 赤滝神社御由緒 「岩崎町郷土誌」 一九四〇 六八～六九頁

- ⑫ 木下亀城 黒鉾式鉾山 論文別刷集 一九四〇
- ⑬ 木下亀城 本邦の黒鉾鉾床 丸善KK 一九四四 二三五頁
- ⑭ 渡辺万次郎 秋田県鉾山誌資料（未発表）
- ⑮ 渡辺万次郎 秋田県鉾山研究資料（未発表）
- ⑯ 齋藤実徳 雄勝郡の郷土地理研究 ガリ版刷 一九三二 県立図書館蔵
- ⑰ 東大史料編纂所 梅津政景日記一ノ九 「大日本古記録」 岩波書店 一九四八
- ⑱ 鴉田恵吉 坑場法律 「佐藤信淵鉾山学集」 富山房 一九四四
- ⑲ 齋藤実則 「鉾山の開発と地域社会の展開 近世前期における内鉾山の場合」 秋南紀要一 一九六七
- ⑳ 齋藤実則 「鉾山の開発と地域社会の展開 近世後期における院内鉾山の場合」 秋田地理創刊号 一九六五
- ㉑ 齋藤実則 「鉾山の開発と地域社会の展開 古河鉾業KK院内鉾山の場合」 東北地理 一五一一 一九六三
- ㉒ 齋藤実則 「松岡鉾山資料」 秋田県地域開発研究紀要 第三報 一九七五
- ㉓ 齋藤実則 「鉾山公害に関する諸問題 同和鉾業KK松岡鉾山の場合」 秋田地理 一一 一九七五
- ㉔ 仙台鉾山監督局 『東北鉾山風土記』 一九四二 八七～九〇頁